

「声」のちから

新潟県柏崎市立鏡が沖中学校

三年 河上理穂

ちからをくれたこと、それは人それぞれでたくさんあると思います。例えば家族、仲間。これらはそばにいただけで安心できます。好きな芸能人、趣味。これらは嫌なことを忘れさせてくれます。いろいろありますが、私に力を与えるのは、「声」です。ちょっと不思議に思う人もいます。ですが、私は良い言葉より、人の声が好きです。

なぜ声が私に力を与えるのか、それは応援と同じ効果だからだと思います。スポーツの試合では応援は欠かせません。ポジティブな言葉で選手たちを励まします。もちろん大きい声で応援します。このとき、実力は相手より劣っているのに、応援の声が大きい方が有利になっていることがあります。これは言葉ではなく、「声のパワー」です。同じように、苦しいときや、辛いときに声をかけてもらおうと元氣になれます。

また、想いを伝えるときも声で伝えると、気持ちが伝わります。謝るときに、手紙で謝るよりも、口で言う方が相手も分かってくれます。感謝するときも、直接言われたらとても嬉しいです。私は恥ずかしくて素直に言えませんが、家族と友達にありがとう、と言いたいです。

このようにいろいろな「声」があります。私は何度も声に助けられました。いくつかご紹介します。

一つ目は、祖母の声です。私はネガティブで、すぐ落ちこんだり、悩んだりしてしまいます。そうすると、祖母に電話したくなります。話を聞いてほしいから、というよりは、声が聞きたいからです。祖母の声は、上品で優しくおっとりしています。よく電話をしながら泣いてしまっています。それくらい安心感があります。少しづつ前に進めないうち、祖母に電話をすると元氣が出ます。ゆっくり優しく、諭すように話しかけてくれます。聞いているうちにだんだん心が落ち着いてきて、悩みなんて吹き飛びます。その後は二人で延々とおしゃべりをしています。しばらくして、

「またね、バイバイ」

という声が聞こえます。寂しくて電話を切るのが嫌で、いつも名残り惜しく切ります。

そんな祖母の声は、私を心から支えてくれる「声」です。

二つ目は、あいさつです。「こんにちば」「さようなら」「いただきます」など、たくさんありますが、私は「おはよう」が好きです。朝起きて、家族に「おはよう」と言ってもらおうと一日元氣に過ごせます。明るく言われると気持ちがいいです。学校で友達に会って「おはよう」とあいさつを交わします。大きな声で返されるのが嬉しいです。たかがあいさつと思わずに積極的に行きたいです。そして、あいさつの声は態度の表れです。あいさつする相手にどれだけ感謝しているか、親しみがこめられているのか、この二つが「声」となって表れます。

あいさつだけでなく、言葉も声なしでは生きません。私は言葉のちからは「声」にあると思っています。

す。言葉によって元氣が出たり、励まされたりするのは、声が心情をそのまま音にしてくれるからです。あいさつの声は、みんなに届く世界共通の「声」です。

私はこのようにして、たびたび声にちからをもらいました。形はさまざまですが、きつと自分だけの声があると思います。そして、その声は自分が苦しむときや辛いときに助けてくれるはずで

す。ときには自分から声を発することも重要です。頑張っている仲間や、いつも支えてもらっている家族に声をかけると新たな何かが生まれます。私たちは普段、当たり前のように声を使ってやりとりをしています。その声によってもたらされる「ちから」で変われることもあります。そのためにまず私が、たくさん声をかけていきたいです。